

電子複写不可

復史料

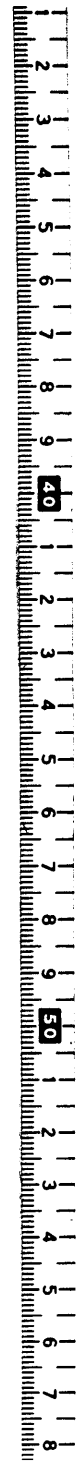
沖繩作戦史料

天号作戦  
向に於ける

上号部隊運用並に戦斗に關する戦訓

防衛研修所戦史

第一復員局



戦 7. 3.

沖繩固係戦史資料

天号作戦  
間<sub>に於ける</sub>と号部隊運用並に戦斗に関する戦訓

第一復身局

天號作戦と號部隊運用並に戦國に関する戦訓  
圖に於ける

緒言

本戦訓は常師團の天號作戦開始以來概ね一ヶ月半に亘る戦訓間の  
戦訓を収録したるものにして内容固より檢附の餘地多きも緊迫せ  
る戦局下戦訓の迅速なる活用により天期作戦に資するの要あるを  
認め取敢て印刷配せざるものなり

第一 と號部隊運用に関する戦訓

其の一 と號部隊運用の要則

一、奇襲強襲

と號部隊の攻撃は奇襲攻撃に徹底せざるべからず強襲は左の理  
由により多くの場合有利ならず  
ノ優勢なる敵の二重三重の警戒線突破に必要な直掩又間掩戦  
闘隊を随伴進攻することは多くの場合望み得ず

2 直接高機隊は特攻隊の進路なる行動に備付せられ又目らの増設等に依り戦術は本然の能力發揮は困難なり

3 特攻機獨力を以てする攻撃は空中制空者の準備特攻機の作能重々爾等の制空上無味なり

其多數機の進取は敵の電探又は各種監視網に過早に捕捉せられ敵に奇襲の果を購せしむるの不利あり

註 師團は敵偵察機の特攻隊を以て奇襲攻撃を行ひ其の大部は成功あり

### 一と機部隊の編成

一 攻撃隊の編成は特攻隊三乃至五機誘導兼い果強襲機一特攻を兼ねることあり一機と可とす

理由

1 奇襲的行動容易

2 敵の制空下に於ても即ち準備可能なり

3 離陸空中集合航進其の他の行動を輕捷機敏ならしむ

4 地上準備特に出動準備を迅速確實ならしめ得

5 器材的準備特に飛行機の整備豫備機の準備等に有利なり

註

1 新田原飛行場より出發せし敵三六、三七、三八、飛行隊數の一隊の機數は概ね八乃至九機にして出發に方り相當の混亂を生じたるのみならず空中集合にも又多くの時間を費したり

2 臺灣に於ては空襲終了後より準備を開始して通常四乃至六機を出動せしめたるが官百、石垣飛行場に於ては敵の制空下に於ても其の間隙等を利用して二乃至三機の特攻機を出動せしめ得たり

### 三と襲機の整備

1 先島諸島の使用制地せらるゝに伴ひ戦闘機及練習機を主體と

する範圍は各種の爆撃及燃料増補を實施せり其の概要以下の如し

2 爆撃増補實施上注意すべきは航上に於て一途進言よりと別進せる事項と雖も各種の條件に依り實施上に於て不適當なること多きを以て速かに實地にて檢査するを要す

註

1 燃料消費量と航空機動務者技術の必ずしも良好ならざることと飛行機重量の増加機体構造等に依り著しく増加す時に便ひ古しの航空機の如きは極端にして各機毎に細密なる試験を必要とす

2 各種設備に依る速度の低下特に航路上に於ける風向風速に基く航路速度の増減は航路と相決つて爆撃増補の困難關係及用兵上考慮を要する事項なり

秘匿飛行場と發進飛行場

特攻隊機出動待期間に在りては飛行機は徹底的分散避難可能なる秘匿飛行場に配置し出動に万日前日薄暮又は當日拂曉に發進飛行場に移動し出動を準備する可とす又發進飛行場には敵襲の顧慮少く且消走路其の他の素質良好なるものを選定するを要すこれ最大限度に直設備せる特攻機をして整齊に離陸せしむることには空中集合及爾後の行動を確實容易ならしむる所以なればなり

但し飛行場の素質によりては一飛行場に於て兩目的を達成することあり

註 九州に在りては敵三六、三七、三八飛行隊は秘匿飛行場として熊本各飛行場と發進飛行場として新田原飛行場を選定せり

又臺灣に於て臺中より出發せし敵飛行隊は臺中東飛行場と秘匿飛行場とし臺中飛行場と發進飛行場として選定し共に敵機の防害全然なく且整齊に出發せしめ得たり此に反し

他の島嶼占、右玉寺を襲撃飛行場とせし特攻隊は敵機の出  
害により出勤に著しく困難を感じ又は損害甚出し出勤不可  
能となりたるものあり

其指揮官（派遣幕僚又は指揮官）の変更飛行場を於て或る特攻隊  
の指導特攻隊の出勤に万りては指揮官は自ら又幕僚或は指揮官  
等と派遣し出勤處に爾後の行動に關し詳細切に指導すること  
絕對必要なり

當國に在りては特攻隊出勤に万りては多くの場合其の發  
達飛行場に部隊長自ら臨場し又は幕僚を派遣し現況に即し  
出發就進攻撃要領等細部に亘り指導せり

右の外各發達飛行場には其の飛行場に固定的指導官を常置  
し各特攻隊出勤準備及出勤（離陸空中集合）等と懇切に指  
導するの要あるを痛感せり之か爲此種要員を豫め養成訓練  
し置く可とす而して該要員は單に技術經驗のみならず精  
神的に指導力大なる者を選定するを要す

#### 六 特攻隊員の待機間の精神指導

特攻隊員は特攻決け直前迄精神指導を重視すること緊要なり之  
が爲特に生活環境を整理し嚴肅なる監督下に節度ある生活をな  
さしむるの要あり

待期長期に及ぶに従ひ特に然り特攻隊員をして低級なる享樂を  
追及せしめ又は旅館等に於て放縱不仕舞なる生活をなさしむる  
ことを以て特攻隊員を優遇せらるかの如く曲解せるもの少からず  
七 特攻隊待機間の教育訓練

特攻隊員の素質に鑑み待機間に在りても教育訓練を中絶せざる  
こと肝要なり但し飛行機の分散秘匿に特攻機の損害防止のため  
の訓練期は拂脱薄暮に限定し且機數も減少限度に止むるを可と  
す

註 飛行機の分散秘匿及特攻機の損害防止の爲殆ど訓練を中絶  
し出發に万り煩る危険なる離陸をなせる隊あり

#### 其の二 敵艦特攻隊

二、攻撃準備

1. 搜索

我が企圖する攻撃時機を考慮し最新の敵情並に氣象状況を収集せしむる如く搜索を部署すること肝要なり而して司偵隊には攻撃目的に鑑み搜索重點を明示するを要す

註 高々度搜索を以て司偵搜索の唯一の方法と思惟し之のみならず専念せし爲艦船の風小搜索をし得ざりし例あり

2. 攻撃隊の部署

1. 特攻隊と誘導並に戦果確認機とを以て一攻撃隊を編成するを通常とするも時として誘導並に戦果確認機を省略し特攻隊長機として戦果確認を兼ねしむる可とする事あり

註 師團に於ては以上の二方法を採用したるも誘導並に戦果確認機の運送せむる少きを以て誘導並に戦果確認機も特攻をなさしむるの方法を用ひ其の多くは成功せり

2. 攻撃隊には掩護戦闘隊を附せざるを可とする場合多しこれ奇襲成立上必要あり

註 師團に於ては特攻隊は多くの場合獨力進攻を實施せしめたり

3. 攻撃時機

特攻隊員の技術特に夜間洋上航法の能力未熟なる者を主體とする隊の攻撃時機は薄暮(日没後二〇分乃至四〇分)時に選定するを可とする

黎明時は好機臨時にして其の捕捉困難なる夜間の臨離陸中集合航進上の不利あり

晝間は徒らに戦力を損耗するに過ぎず絶対不可なり

註 師團は臺灣及九州より沖縄迄の長遠なる夜間の洋上航法は月明時と雖も特攻隊員の航法能力上無難なるを以て大抵は薄暮攻撃に終始し其の大抵は成功しあり

4. 地上準備

1 飛行機の高度且徹底的分岐秘匿による戦力の保存施設の  
上空下に於ても出動を準備し其の制空の瞬間の間隙を利用  
して瞬時に出動し得るの促進飛行場に於ける出動準備施設  
に情報迅速施設は特攻隊運用上絶対に必要なり薄暮攻  
撃を實施せんとする場合特に然り

註

1 師團は従一統作戰準備以乘機敵上への趣旨により秘匿飛  
行場の設定と飛行機の高度分岐施設（飛行機整備位置は  
主滑走路より三―四杆離隔せしむ）の完備出動準備位置  
の遮蔽施設又は特攻隊の設置情報組織の完備に努められ  
る爲天候作戰に於ても大なる支障なく作戰を遂行し得た  
り

2 促進飛行場に於ける出動準備位置の設備必ずしも完備し  
るべき所ありて出動前多きは三時間（少なきも一時間）早く天空に暴落し  
て危険なる状態に於て出動を準備すること屢々ありき設

進飛行場に於ける出動準備位置秘匿設備の完備は急務  
なり

又敵機動部隊攻撃の準備時間は最少ならしむる如  
く施設するを要す

### イ 攻撃實施

イ 促進空中集合並に誘導

1 攻撃部隊の促進順序は誘導並に戦果確認機特攻機の順序と

註

1 遂中より出發せし敵飛行隊か誘導並に戦果確認機特攻機  
の遂より出發せしめたるも誘導機故障に因り著陸したる  
も豫備機に來換へ出發するの機を逸し爲に特攻機の空中  
集合及前進開始迄に多くの時間を空費せし例あり

2 八規より出發せし敵部隊の戦果確認機を以て攻撃の促進に  
先立ち餘祐をたもちて早く出發せしめたるため通信機故



陣のため誘導は著しくしたし、以備候に果候へ特攻機に  
追及し任務を完了するを待たる例あり

2 空中集合の爲には各隊の離陸準備飛行経路空中集合高度集  
合高(著明の日線上空)空地連絡等を離陸に先立ち各隊  
員に細部に亘り徹底せしめ置くを要す

註 特攻隊員の~~夜~~夜間未熟なるため一部の者と除き多くは不  
十分なる場合多し其の原因の主なるものと察すれば天  
の如し

1 離陸間隔過大

2 離陸後の編隊経路過大

3 索敵偵察資材にして破壊を發見し得ず

4 缺機ありたる場合前進を開始すべしや中止すべしや  
等空地連絡法を講じらるる爲空中にて混雑状態を  
呈せる場合あり

3 出勤準備後進路に空中集合等を整齊ならしむる爲には掩護

處置を講ずること絶対に必要なり

註 敵機の~~偵察~~偵察の~~目的~~偵察の目的を~~遂~~遂し~~得~~得ずる場合小數機の戦闘機を以てするも克  
く沈著~~沈著~~沈著に行動し出勤を齋齋ならしめたる例多し

ロ 航空及航進間の掩護並に誘導

航空は敵の警戒幕を迂回する如く選定し又時に之を變更す  
を要す

註 新田原飛行場を發進せし敵三六、三七、三八、飛行隊の

航路は知覺、徳之島を通過することなく其の遙か四方洋  
上を沖繩に進攻せしめたるが如<sup>き</sup>又<sup>き</sup>臺中を發進せし各特攻  
隊は全部一旦淡水沖に前進せしめ石垣、宮古島附近上空  
に遠く北方を沖繩に進攻せしめたるが如し

特攻隊攻撃の全經過に亘り直掩をなすは反つて不利なる  
場合多きも敵の電探の威力圏外に於て而も敵の哨戒機等  
に遭遇するの虞慮大なる場合にありては發進掩護に任し  
たる戦闘隊を以て航進間一部の掩護をなさしむるを有利

とすことあり

海中に曳ける特攻隊は淡水蒸餾機沖まで又宜爾八瓊等と  
曳せしむたことあり

航路の誘導

航路中の誘導は攻撃隊の分解開始時（船團より五〇杆力  
至一〇〇杆）迄誘導するを通常とするも誘導機に結果  
認めなざしむることなく略速せしめんとする時は高度降  
下時（敵の探防機のため高度を降下する點にして通常  
敵の電探線想位置より二五〇杆）附近迄誘導する可し

す

註 船團の特攻隊の多くは攻撃隊の分解時迄誘導せり

ハ接敵法

状況許す限り超低空高度か解接敵に依らしむる可とす  
即ち敵の電探威力圏（二五〇杆）に入るに先だち超低空（一

〇〇米以下）に移行せしめ敵戦闘機の哨戒幕百杆圏に近接す  
るに先だち分解（間隙五乃至一〇杆の横隊又は距離二乃至三  
杆の單縦陣）し高度五〇米を以て目標に近迫せしむる可と

す

註

1 船團に於ては専ら本方法により大分の特攻隊は奇襲に成功  
しあり

2 薄暮時に於ける沖繩周辺の敵戦闘機の哨戒高度は多くの場

合一〇〇〇乃至一五〇〇なり

ニ突撃法

急降下突撃法に徹底するを要す之が爲目標の一〇杆附近に近  
迫せば逐次高度を上昇しつゝ索敵し次で突撃せしむるものと

す

ハ戦果確認

戦果確認機は攻撃隊の分解開始と共に攻撃隊の後方に移り之

に近く飛離して前進し戦果を確證せしむるものとす

第二 と戦部隊戦術に關する戰訓

其の一 攻軍準備

一、攻軍隊長の待機間に於ける隊員の指導

攻軍隊長は待機間隊員を求めて隊員と共に飛行場に進出し目

已搭乗機の整備をなすこと緊要なり

註 一般に隊長に其の指導刀少く隊員と共に宿舎に候ふ待機するもの多きは遺憾なり

2 航法準備は單に隊長機誘導機のみならず各機の搭乗者も正確に實施するの要あり

各機経針盤修正も亦同じ高度分解攻撃を企圖する場合に於て特に然り

註 候機の各種航法的準備不十分なるもの及其の著意少なきもの多きは指導上注意を要す

其の二 攻撃實施

イ 發進及空中集合

1 離陸の爲の出發線に於ける飛行機を滑走路に正對せしむることは嚴守せしむるを要す

註 重裝備は飛行機に拘らず輕卒に出發線に就き離陸するため離陸開始直後より引懸けられ滑走路外に跳出したるもの又は離陸を復行し益敵の出勤を混亂せしめたる例少からず

2 離陸間隔は前方機が浮上るを目途とし著しく延伸せざるを要す

註 空中集合に著しく時間を要し且概して拙劣なる場合をなすものは離陸間隔の延伸するもの多し

3 フラップを締むる時機の過早なるものは嚴戒するを要す  
註 重裝備に拘らず低空にてフラップを締め著しく危険なる状態を呈せるものあり

4 場周経路は過大ならざるを要す又常に前方機に注意しある

を要す

註 場周経路過大にして僚機を見失ひ又前方機に注意し  
りざる爲出動準備の掩護戦闘隊の編隊と誤り集合した  
る爲空中集合の時期を失ひ歸還著陸せる飛行機あり

5 空中集合中の各機は地上の布板信標に注意しあるを要す  
又空中集合不可能なる飛行機も過早に進攻を断念著陸する  
ことなく布板信標なき限り速度を增加して追及し要すれば  
獨断進攻するの概あるを要す

註 空中集合十才ならず主力に稍く遅延したる理由を以て  
過早に進攻を断念し歸還せる特攻機ありたり

〇 航運竝に誘導

1 誘導機と特攻機の隊長機は勉めて海上に出するに先だち航  
法諸元を確實に把握するを要す之が爲發進當初にありては  
要すれば目視の範囲内に於て隊形を疎離して航法作業を實  
施するを要す

2 高度降下點に近づくに従ひ漸次高度を降下するを要す此の  
際降下開始に先だち燃料の増槽のコック切換へを忘れざる  
を要す

註 九州方面より沖縄に出動せし直協の特攻隊の一機が高  
度降下點たる沖水良部島附近に於て不時著陸せざるは  
コックの切換へによるの疑あり

3 攻撃隊分解開始點に於て誘導機の後方に移る場合は旋回す  
ることなく速度の減却又は蛇行により攻撃隊の直後に墜  
するを要す薄暮時に於て動もすれば攻撃隊を見失ふ慮られ  
ばなり

4 航運間の連絡は特に必要なる場合の外無線を封止するを要  
す但し攻撃隊の分解開始點に到着せる時は奇襲概ね成功せ  
る所にして爾後の指揮にも關係あるを以て到達機數と共に  
簡單に連絡するを可とす

註 師團に於ても此の連絡を勵行し奇襲奏効の有無攻撃時

刻の良否の判定に資する所大なり

5 陸地より海上に出するに万りては別命なく爆弾の安全針を  
抜脱するを要す

6 航進間真に止むを得ざる理由により離遠せざるべからざる  
飛行機は必ず安全地帯（成るべく海上）に於て爆弾投棄  
して著陸するを要す

#### ハ接 敵

註 爆弾を裝備せる機體遊着陸する者多きは注意を要す

攻撃隊分解點に於て隊長機分解を命じ機隊に移る時は稍く速  
度をつめ機隊に移る時は速度を増加して迅速に隊型を整ふる  
を要す

#### ニ突 進

1 攻撃開始點に移動しつゝ目標を搜索し所命目標に突入する  
を要す此の際目標の選定にのみ焦慮し躊躇逡巡することあ  
るべからず

註 出發前攻撃目標は戦艦又は空母に徹すべきを指示せし  
爲目標搜索に没頭し損害を受けたるにあらずやと思惟  
せらるゝものありたり

2 突入前の目標搜索間電探防害片の撒布は有効なり

註 敵の防空射撃を電探防害片に吸収せし例あり

#### ホ戦果確認

戦果確認機及隊長機は最後迄超低空を以て執拗機敏に行動し  
全機の戦果を確認し逐次之を報告するを要す

又自らの突入する目標確認せば併せ報告するを要す

註 復戦の戦果確認機にして十八分間に亘り機敏執拗に行動  
して五機の戦果を逐一報告し自己の突入態種をも併せ報  
告せしものあり

ハ航進接敵要領は附圖の如く實施するを可とす

註 敵機特攻隊の大分は本圖の如く實施し奇襲に成功せり

別紙

天一製作機に伴う飛行機整備買付要領

機種	増設	数量	備			備考
			種	数	備	
+		80	⑤	1100X1 (國産区) — 1100 (1110) X1	正	機種より決定及機(機種) 1100
+		108	⑥	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		69	⑦	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		67	⑧	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		64	⑨	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		54	⑩	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		24	⑪	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		22	⑫	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		22	⑬	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定
+		22	⑭	1100X1 (國産区) 1110X11	正	機種より決定

機種より決定及機(機種) 1100  
機種より決定

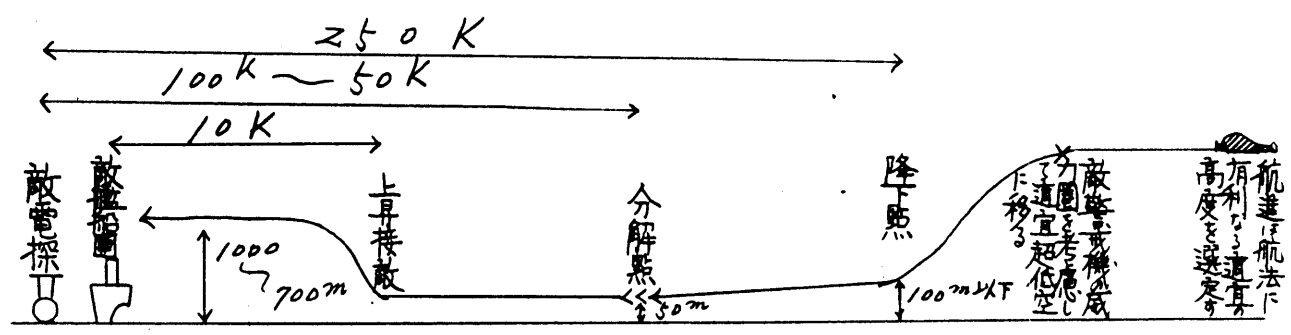
天一號作戰に伴ふ飛行機整備實施要領

機種	燃料	裝料	整備			臺灣より沖縄攻撃(露艦)可否
			増	減	備	
キ 61			② 一五〇〇 一〇〇〇			可
キ 84	697		① 一三〇〇(胴体下)		② 二五〇〇	増く困難
キ 45(夜)	1000		① 二〇〇〇 ② 二〇〇〇 ③ 四〇〇〇 ④ 二〇〇〇 ⑤ 二〇〇〇		⑥ 第一タンク内(下)	可能見込
キ 48	1680		① 四〇〇〇(胴体内)		② 二五〇〇	可
キ 79	200		① 増槽なし		② 八〇〇	可
キ 27	300		右に同じ			否 2先島列島より沖縄攻撃(露艦)可 臺灣より先島列島攻撃(可)
キ 55	330		① 一三〇〇(胴体下) ② 一〇〇〇(胴体下)		③ 一〇〇〇(胴体下)	可
キ 36	330		① 一三〇〇(胴体下) ② 一〇〇〇(胴体下)			可
キ 43	470		① 一三〇〇(胴体下) ② 二〇〇〇		③ 二五〇〇(胴体下)	可
キ 51	608		① 一〇〇〇(胴体内)——五〇〇(五五)×1 ② 三〇〇(胴体内) ③ 三〇〇(胴体内) ④ 右に世前敵タンクなきものは ⑤ 新に二〇〇〇			可

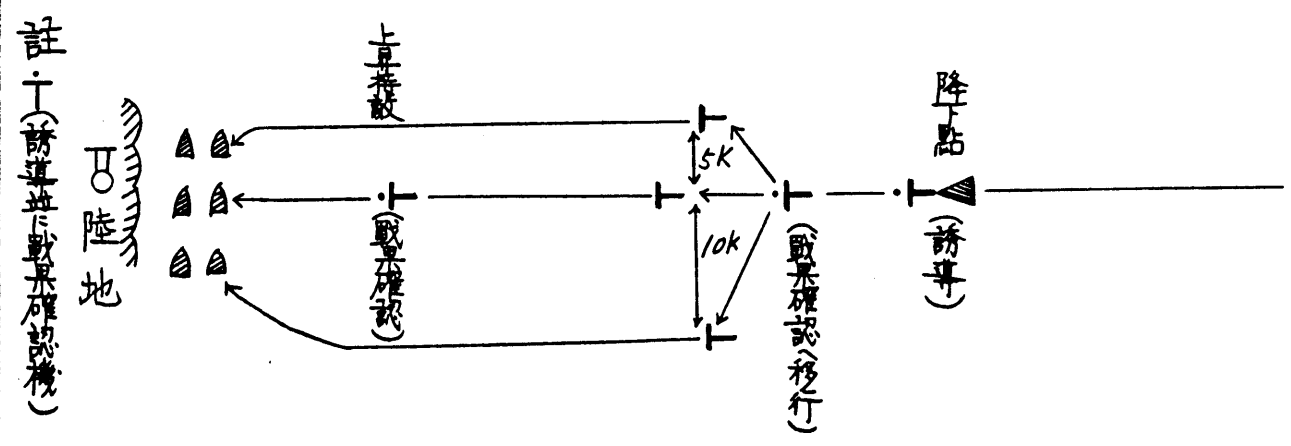
臺灣より沖縄攻撃(露艦)可否

# 敵艦特攻隊の爲の特攻隊進行に接敵要領

附圖 側面圖

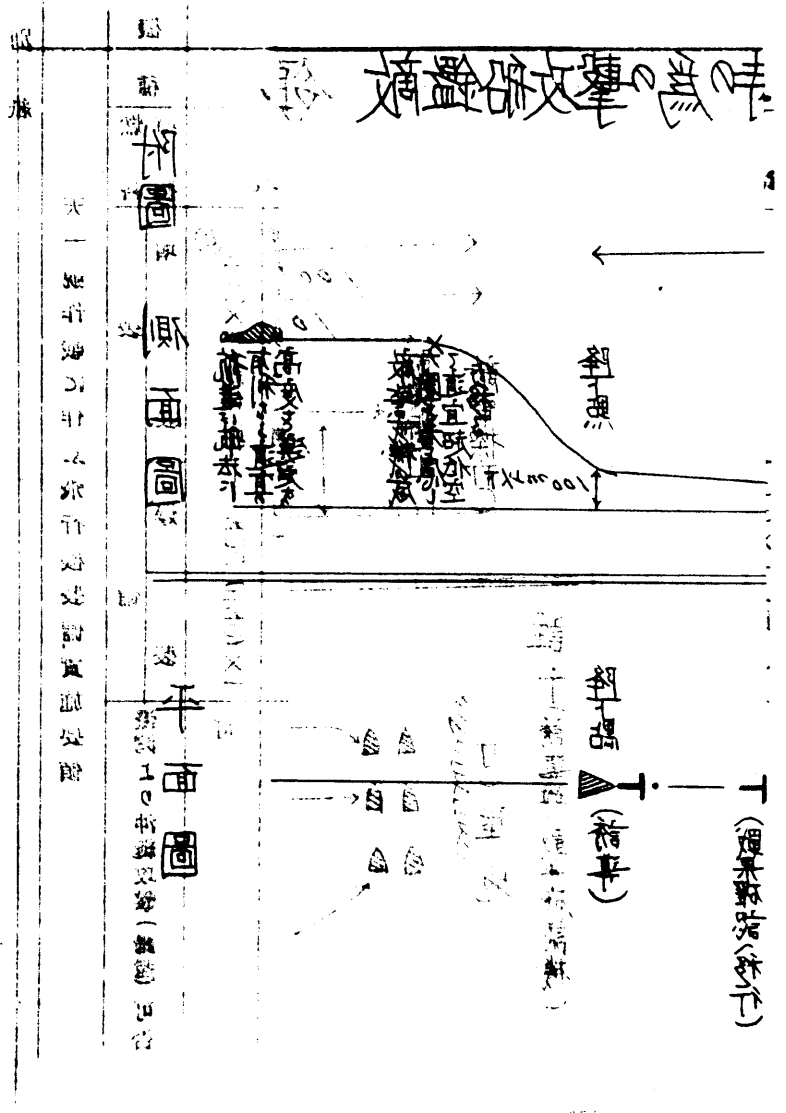


平面圖



註：(誘導地)戦果確認機





天候作戦に於ける  
軍偵を以てする 艦船夜間海戦観測

一 海上航法に關し

ノ(航法諸元は絶対確立するを要す)

中隊は當初操縦者航法を主とし無線に依る前進観測を補助したるもの宮古島の方探は空爆の爲機能不良となり且つ宮古島は山なく殆んど雲の影と島との判別に苦しむ状況にして月明視程五〇杆程度の夜間に於ては十杆迄近接せざれば島を發見出頭す

然も島の最大長四〇杆目標迄の距離三〇〇杆なるを以て左右一度半にして島を外し基地に歸還し得ざる者あり

2 (投下目標灯に依る尾照編流は極めて有効なり)

以上の状況に於て急速に尾照編流法を実施せるに極めて簡單にして精度一度以内の好成績を修め航法に依る損害を絶無ならしめたり

備考

1. 投下時及測定時は正しく保針すること最も肝要なり
2. 編流五度以上の場合は一度一〇度以上の場合には二度増加す

對地高度は三針路に依り風面を決定せざれば求むる方途なし

3. (戦半後進入せる基點を確實に測定しあること必要なり)  
攻撃艦脱後は敵火器の追射に依り攻撃點より直路歸還すること通常困難なるを以て歸還時の航進發起點に關しては充分慎重なる考慮を要す

4. (島を發見し得ざる場合の處置)  
島を發見し得ざる場合に於ては(他の島に歸還し得る場合を除く)豫定到着時間とならば投下航法目標灯一個を投下し之を基點とし五分從來の方位を以て前進爾後九〇度變針に依り五分毎に四邊形に飛行するときは發見の算入なり此の際歸

二邊に於て右にすべきや左にすべきやは現在途の航法諸元に依り決定す

5. (其他)

敵夜間戦闘機の洋上哨戒は概ね基上となり又敵電波兵器の捕捉を逃るゝ爲航進高度は爲し得れば一〇〇米以下を可とす

二、夜間艦船攻撃(攻撃)に就て

1. (攻撃法)

中隊に於ては一〇〇〇一七〇〇米進入降下角約三十度五〇米以下(但し實際の投下高度は七〇米附近となる)超偏空離脱を實施しありて現在途全弾命中す

2. (敵對空火器は悉く足らず)

右攻撃法を以て航進中又は停泊中の約二十乃至三十隻より成る敵混成船團に對し單機を以て突入し相當猛烈なる射撃を受くるも現在途に敵火のため發當り自爆せるもの一機のみ被弾機も僅少せり

單掛氣收修後に於て敵對空火力約三分の一敵ッセリ

3 (敵艦は相當の回避運動をなす)

照準せられし敵艦は通常對空射撃をなす巡洋艦、驅逐艦、水雷艦に至りては七〇〇―一五〇の約一〇秒間に約九〇度の方向變換をなすを以て必ず船體の軸線に突進するを要せず

且つ舵は最後迄確保し過度とならざること及び命中目標なき場合に於ては必ず近彈とすること必要なり

4 離脱方向は進入前に於て研究しあること必要なり

離脱避空に於ては敵艦の位置不明となり敵は彈先の協同により最後迄追射するを以て遂には離脱困難となることあり

5 敵は煙幕を有効に使用す  
進入前に敵艦の配置を承知し離脱方向を選定するを可とす

發煙濃厚なる場合に於ては高度約五〇〇米迄に到り上空より敵艦の追視は可能なることあるも急降下を以て煙内に突入

陸

するときは全く不明となり攻撃を復行せざるべからざることありかゝる場合に於ては發煙外の艦船を選定するを可とせん

6 敵は隠蔽を配置しあるものゝ如し

敵は廢船を使用し隠蔽となしあるものゝ如きも夜間之が判別は不能なるを以て爲し得る限り走行中の艦船を選定するを可とせん

7 (無線連絡)

無線は行進間は通常封鎖するとも攻撃直前に於て短切なる攻撃符號を發し攻撃後は成る可く速かに戰果報告を實施するを要す然れされば全く不明の儘未歸還となることあり

三 爆彈の効力に就て

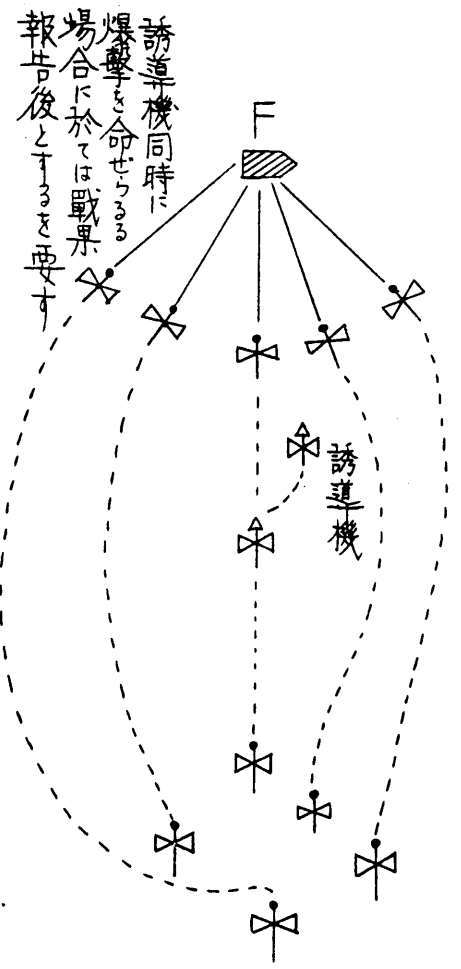
1 陸用二五〇杆彈は不変となることあり

2 二五〇杆跳飛彈は發發確實にして其の効力は擊沈中環陸送船以下と判定す

3 海軍二五彈は二五〇杆跳飛彈より更に効力大なるものゝ如

し信管の延期秒時二秒以上に調整するを要す  
 四機種の改修に就て

- 一 単排氣は對空火器に對し種々の有効なり機能に於ては若干の振動を見るのみ吸入効率良好なる爲に燃料消費量大馬力離昇時に於て稍く大巡航に於ては變化を認むず却効率良好なり
- 二 燃料増槽は二〇〇リタンクを同乗席に一―二裝備せるも二個裝備は操縦上極めて困難一個裝備は注意せば大なる支障なし
- 五 特攻機の誘導戦果確認に就て
  - 一 離陸空中の集合航路間の體形保持は隊長機を中心とすること
  - 二 航路間の航路高度の選定は誘導機に依ること特に異機種の場合に於ては上昇旋回水平飛行速度等に關し細密なる協定をなすを要す



結 言

以上極めて不備なるも主として古島中飛行場を基地とし約一ヶ月半に亘る作戦の空中勤務事項に關し蒐録せるものなり然も中隊

の現況に於て（操縦者は一〇〇〇一三〇〇〇時間同乗者は機上射  
手下士官）  
官古一沖繩間の特異なる状況と以て支那大陸近海及各種種各部隊  
に於て自ら相異するところあるべしと思惟す

天號作戦間に於ける  
在 先島 列島 航空地上勤務部隊（<sup>69</sup> <sub>205</sub> <sup>26</sup> <sub>128</sub>AR） 戦訓

### 一 飛行場設定及偽装、欺騙

1. 主副滑走路の間隔は千米以上を離隔し爆撃被害を局限するを要す特に主副滑走路の交叉せる場合は爆撃毎に其交叉部を破壊せられ同時に使用不能となるを常とす
2. 主誘導路は巾少くも五十米以上とし飛行機の離着陸可能なる如く設定せば有利なり
3. 舗装路面に粉石炭又は石炭殻を散布するは路面偽装の有効なり
4. 落下傘、天幕等を布置する偽弾痕は相當効果ありたり
5. 偽飛行場を設定し且偽飛行機を配置或は之が炎上の状況現示偽夜間標灯其の他を以て欺騙に勉め以て敵火を吸収し本飛行場に對する被害を減少し得たる例少からず  
（偽飛行場の外偽家屋偽障地偽宿等も可ならん）

(例) 官古、西飛行場(一般に使用し非ず)に於て破損不時著  
機を配置し且其間灯火を實に集結せしに敵の夜間攻撃は  
全部該飛行場に集中せられ中飛行場よりの離陸を容易な  
らしめたり

三 飛行場勤務

飛行場勤務を整齊圓滑に遂行する爲には直接勤務する各種部隊  
の編成に調和あらしめ且此等を有機的に結合し各部隊本務遂行  
として相互密接なる連絡を保持せしむるに在り

一 飛行場勤務班の人員は其飛行場使用機數に依るも勉めて餘興  
祐あらしむるを可とす

二 補給人員は主として補給中隊より充當し不足人員を待番工の  
一部を以て援助せしめたり

應急出勤機の補給の爲秘匿位置には豫め最小限の燃料及抽出  
用空ドフム罐を分置(之が爲各秘匿位置の收容豫定機種を豫  
め定め置くを要す)し得ば敵機在空下と雖も晝間作業の詰率

陸 年

を向上し得

燃料を其部度測量等より撤出補給せんとすれば出勤時刻に憑  
るも敵機に制壓せられ作業を完了し得ざることあり

但し燃料共に飛行機秘匿位置より十米以上離隔し小敵宛境内  
に偽裝し置くを要す此際爆弾は塞螺部に十分塗油し雨水の浸  
入及發射を防止するの著意を必要とす

秘匿施設内に於ける燃料補給に方りては十八立鐘利用に依る  
を最速とし爆彈裝着は丸材應用に依るを最速とす運彈車の價  
値又大なり

三 整備班修理班は各機種に應ずる如く任務を分擔し先任者をし  
て之を統轄せしむるを有利とす

秘匿班は同時に十數機の搬出入を要求せらるゝこと屢々にし  
て而も至短時間に實施せざるべからざるを以て一機(三式戰  
として)少くも三十名の人員を確保しめあらざれば困難なり  
他部隊の援助を胸算し或は一人をして二回以上の作業を擔任

せしむるは不可なり  
 拂脱搬入に際し人員不足のため一人として二回搬送せしめたるに秘匿未完了のため敵機の襲撃する處となり急遽其場に於て偽装し辛うじて損害を免れたる例もあり  
 偽装實施の爲には石以外に之に専念し待べき人員を設くるを要す

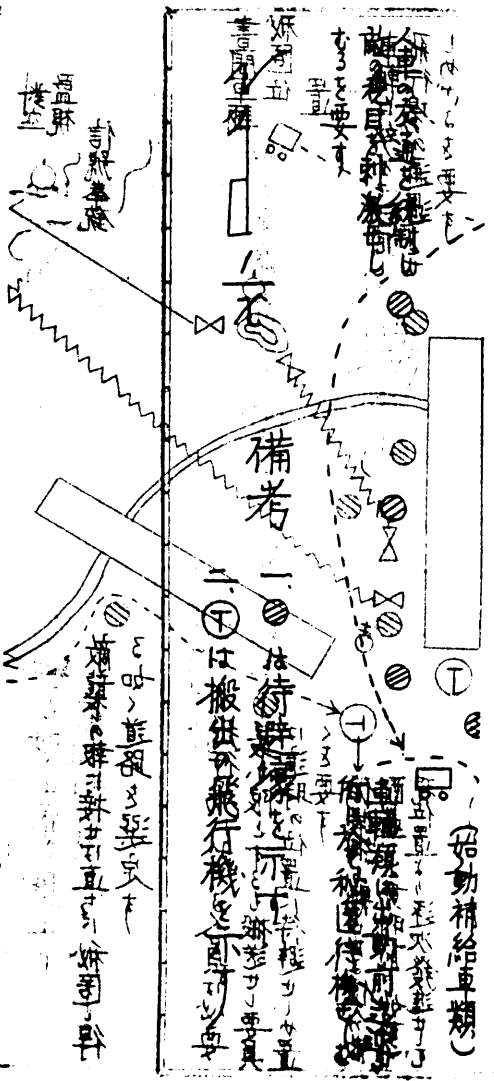
即ち偽装人員を搬送に使用したる爲偽装材料整備不長となり秘匿位置を隠蔽せる例あり

5. 兵器班は彈藥燃料等を補給班に交付するに先立ち彈藥保管の結合等につき十分検査し之が正確を完全ならしむるを要す  
 信管結合せざるもの又懸吊架と炸彈吊と一致せざるもの等ありたり

6. 空襲下出勤迄に於ける飛行場に於ける勤務要領を圖示せば左の如し

三、高度分散秘匿

1. 飛行機秘匿止處に通ずる誘導路の幅員は既設道路を利用する場合に於ても最小限ならしめ兩側に雑草等を植生するを可とす



三 高度分散秘匿

の如し

一 飛行機必直一箇に迫ずる時、道路の幅員は既設道路を利用する  
 場合、於ても敷小限ならしむ、兩側に純草等を植生すると可と  
 す

宮古飛行場の出勤道に於ける飛行場勤務要領

敵の來襲時に方向距離と適時速報し對應の餘地を與へよ

秘匿地

薄明時に誘導を完了す  
 る如く出發を規正す

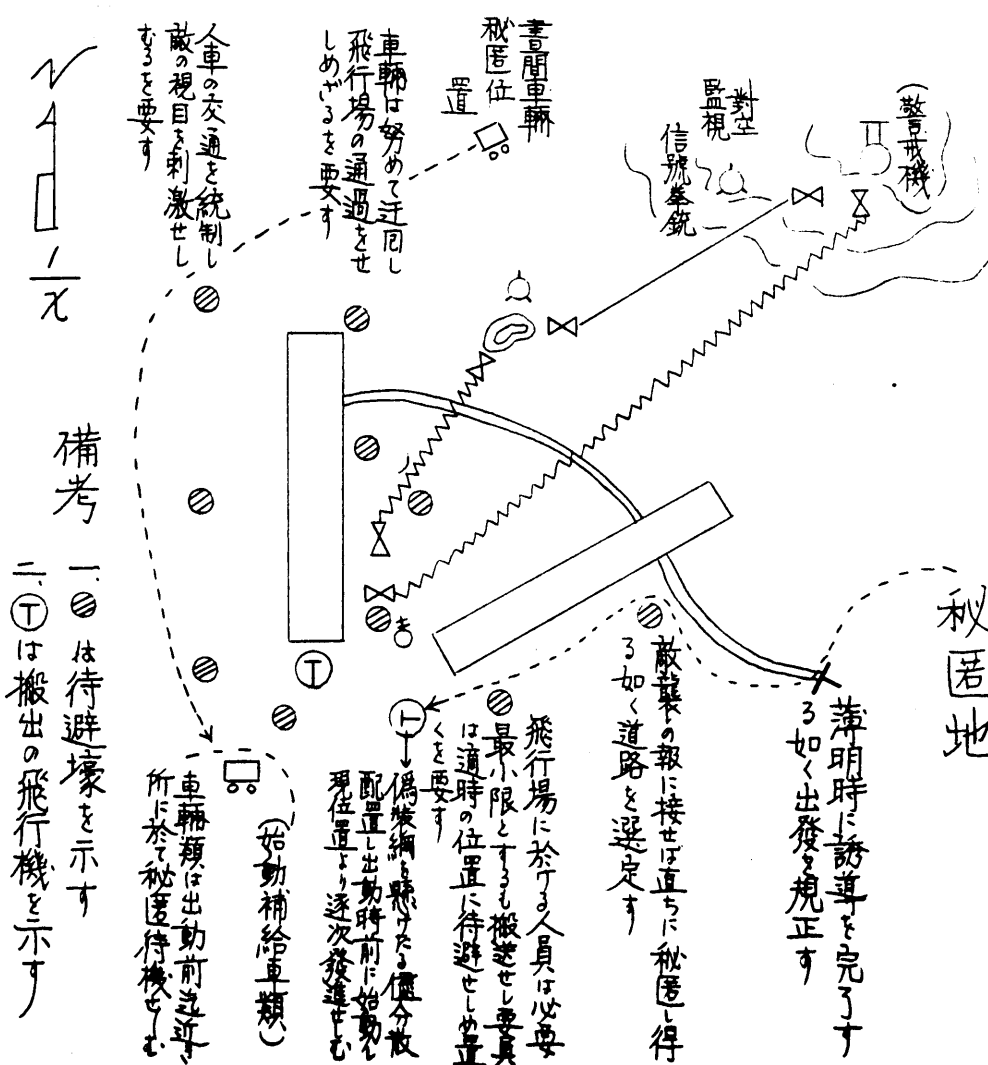
敵襲の報に接せば直ちに秘匿し得  
 る如く道路を選定す

飛行場に於ける人員は必要  
 最小限とするも搬送せしめ要員  
 は適時の位置に待避せしめ置  
 くを要す

偽裝網を懸けたる儘分散  
 配置し出勤時前に始動し  
 現在置より逐次發進せむ  
 (始動補給車類)

車輛類は出勤前迄近  
 所に於て秘匿待機せむ

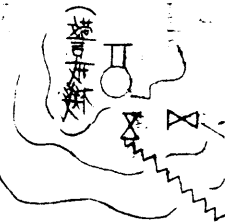
書留車輛  
 秘匿位置  
 車輛は努めて迂回し  
 飛行場の通過をせ  
 しめいよを要す  
 全車の交通を統制し  
 敵の視目を刺激せし  
 むるを要す



備考

- 一 (A) は待避壕を示す
- 二 (B) は搬出の飛行機を示す





この人は強欲の強  
 精神検査の結果より

深田 氏

この人は強欲の強  
 精神検査の結果より

この人は強欲の強  
 精神検査の結果より

この人は強欲の強  
 精神検査の結果より

陸

2. 誘導路より秘匿位置への引込路は飛行機搬出入の外は人車の  
 通行を禁じ燃料補給の爲にも秘匿位置に於ては補給車を用  
 ることなく手力又は簡便補給器を以て實施し又痕痕は直ちに  
 消滅するを要す

3. 秘匿位置を暴露せしめざる爲には數個の秘匿位置を一組とし  
 責任者と定め之が偽裝秘匿の責任を分明ならしめ常に點檢指  
 導を厳密にし賞罰を明かにすれば効果的なり

秘匿施設は絶えず補備するを要す

4. 偽裝材料を秘匿位置附近の樹林に求め爲に森林の形状を變化  
 せしめ却て秘匿位置發見の端緒を作爲せざる如く注意を要す  
 5. 滑走路或は著明なる誘導路に近接せる長大なる森林等を秘匿  
 所とすれば攻撃を受け易し殊に著明なる建物附近に設定する  
 は最も不可なり

(例) 石垣に於て國民學校附近の秘匿位置は屢々被弾し之に  
 反し離隔地に點在下る小森林或は凹地等は比較的目標となる

こと妙かりき

6. 秘匿位置及飛行場周辺に於ける兵の行動地域には成るべく  
進敵良好なる位置に於て多數の砲壺式掩体を設け作業人員  
の待避壕たりしむると共に空襲下秘匿材を監視し被弾發火せ  
ば直ちに消火に任ずべき人員を待避せしむ置くを要す

(例) 石垣飛行場に於て特設警備工兵隊の兵二名は秘匿作業  
中敵機の攻撃を受け附近のドーム壕に被弾發火せるを敵弾下  
に挺身消火し飛行機の毀滅を防止し得たり

7. 不時着機にして直に收容不能の場合は偽裝するは勿論重要出品  
等を成る可く速かに収卸すを要す

但し不時着地秘匿飛行場なる場合は真事を排し秘匿位置に據  
送するを要す然らざれば飛行場發見の端緒となるべし

8. 高度に分散せる秘匿位置には通信連絡の手段を講じあるを要  
す  
急據出動及被害防止重上重要なり

陸

9. 秘匿位置一準備線間の搬送途中空襲を受けたるも損害を免れ  
たる例あり

右は搬送間毛布被覆等を偽裝材料に用ひ空襲あるや敏速に警  
報を傳達し直ちに附近壕中に入れ遮蔽せし爲なり又作業人員  
の遮蔽不十分が發見の端緒となり易きを以て注意するを要す  
四 彈痕補修

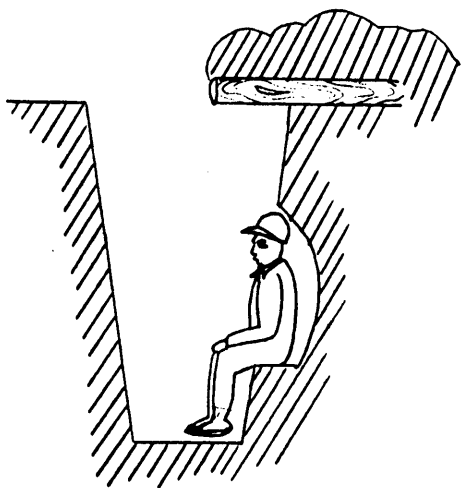
空襲の激化と共に彈痕補修は飛行場大隊の主要なる任務とす  
宮古の如きは飛行場大隊の特警工二ヶ中隊(約一〇〇名)飛行  
場設定隊三ヶ中隊(約一五〇名)を以てするも敵機在空中の  
晝間は殆ど作業困難にして敵機退散後(一八三〇頃より拂曉  
時迄に實施せざるべからざる動々もすれば間に合はざる状況  
なるも其の日の彈痕は必ず其日の中に補修完了せざれば逐次  
彈痕の数を増加し遂には飛行場の使用を制扼せらるゝに待至  
るべし此間に於て凡有患條件下疲勞困倦を克服し連續終夜に  
亘る作業を完遂せんが爲には志氣を昂揚し一兵に至る迄克く

は方の直大性を深刻に認識せしめ航空作戦の先驅として粉骨  
碎身する崇高なる犠牲的精神を堅持せしむるを要す  
而して志氣昂揚の爲には友軍の企圖及戦果を知らしむるは効  
果大なり

- 2 官古飛行場に於ける如く飛大及設定隊同一地に於り之を統轄  
する機關なき場合は補修作業に關しては飛大長は設定隊を併  
せ指揮し得る如くするを可とせん
- 3 弾痕は滑走路の中央部に集中するを常とす故に補修材料たる  
碎石土砂は之に近く集積するを要す
- 4 展覧機使用前に焚火によるタコツヤを入念に實施するを要す
- 5 航空作戦に敷座せんが爲には白晝敵機の跡 下作業を強行せ  
ざるべからざることあり而も電探の活動不十分にして單に對  
空監視の警音聴取により空襲を察知せる場合は警報より爆撃  
開始迄良好なる状況に於てしても一分以内なるを以て滑走路  
區周邊三〇〇米内外附近に多数噴壺式掩體を構築するを要す

而して官古の如き地質の飛行場に於ては爆撃に依る石塊等飛  
散し被害を受くることあるを以て掩體は成る可く左圖の如き  
一、七米以上の有蓋掩體とするを可とす

- 6 作業間空襲ありたる場合は爆撃毎に人員を點檢するの要あり  
官古飛行場に於て作  
業中空襲を受け不完  
全なる一洞窟内に數  
十名待避せる處直撃  
弾を受け三十名内外  
の死傷を生じたるも  
指揮官この事實を知  
りたるは約二時間以  
なりたる例あり



#### 五時限爆撃の處置

1 敵の五時限爆撃は當初は殆ど五時間内外に一定しありたるも最近

は火時間不況にして地上作業を束縛すること一層大なり地  
ト一没入せる時敵機は比較的効力弱く二、三〇米にしては  
要する者一名を生じたるのみなるも地上に露出せるものは  
三〇〇米以上離隔し受ける者も出せる例あり

右垣飛行場分隊秘匿位置附近に二〇〇延級時敵機弾一個投下  
せられたるを歩哨発見し整備班長以下三〇名は挺身之に剛  
を附し約一五〇米引出したるに撤出後三〇分にして急降せり  
之を撤出せざりしとせば附近に在りたる敵機は確實に破壊せ  
られたるならん

2 時限爆弾處理の爲には要すれば隊の特別作業隊を編成し置く  
を要す該部隊は特別攻撃隊に準じ取扱ふものとす

### 六 野空行動

1 飛行場分散秘匿位置等への迅速なる情報傳達手段を講ずれば  
作業能率向上及損害防止上絶對必要にして通信網完備しある  
場合も断線を顧慮し必ず副手段を準備しあるを要す之が爲に

フツハ警鐘等の外試運轉等の騒音中の傳達の爲には信號機銃  
は有効なり

2 防空掛將校を設け兵員の退避を指導確認せしむるを要す往々  
に樹蔭家屋内等に在りて被弾死傷せるものあるに注意を要す  
3 飛行場には無用の人員は絶對に存在せしめざるを要す特に出  
動準備間多数の人員を右往左往せしめ爲に敵偵察機等に企圖  
を察せしむるが如きことなきを要す

4 遠隔地に分散勤務する兵の野空行動不適當なる者多し隨時巡  
察を派し指導するを要す

5 空襲に依る無益の損害は砲刀避けるべからず然れども貴重な  
る兵器等を救はんが爲には敢然敵弾下に挺身するの氣魄を堅  
持せしむるを要す右垣飛行場に於て器材庫被弾炎上するや補  
給中隊長は自動車手と共に敵機銃撃下に敢然として消火に勉  
め大隊唯一のスペリーの延焼を防止せり  
万一該スペリーの延焼が炎上したらんか爾後の飛行部隊の行

動に支障を来したること少かりざるものありたるならん  
6. 待避訓練は必ず實施し登降たりしむるは損害防止の根本たり  
作業間の各種態勢に於ける待避の要領を規定し操の之を十分  
訓練しむるを要す

#### 七、對空射撃

1. 對空射撃陣地は經掩蓋第一方固定射撃陣地を對空ハ器の特性  
を十分發揮し得る如く竹網式（偽裝網にて上面を包む）掩體  
とし常時此より射撃し得る如く設備するを可とす  
掩蓋なきも徹底的偽裝に依り損害を極限し得たり  
特に低空海上離脱時（侵入時は下層雲太陽等を極度に利用し  
且高度大なるを以て離脱時射撃するを有利とす）を捕捉し損  
撃的急襲射撃を實施する場合本設備は有利なり  
2. 火器配置の間隔は最小限三〇米（火力集中使用の場合一時と  
して五〇—一〇〇米（狙撃的使用の場合）とす  
3. 射撃要領は絶對的に刺交待射とするも我に近く超低空にて反

轉せる場合等例へ横行目標となるもMの如く容易に照準射撃  
し得る火器に在りては狙撃による効果を期待し得

4. 射撃高度を制限し一回の發射弾を決定し亂射を戒め確實なる  
照準を實施せしむるを要す特にMに在りては迅速なる砲の操  
作を實施せしむ如く諸元を前以て一定せしめ置くを可とす

5. 一銃一門宛約三〇米以上の分散を必要とするに付少數の指揮  
官にては實際的に集中射撃指揮困難なるに鑑み一銃一門宛に  
分隊長以上の指揮者を附し例へ一目標に對し集中火力指向困  
難なる場合に於ても確實なる各個射撃を實施せしむること緊  
要なり

小口輕銃の超低空目標に對する狙撃的急襲射撃を實施する場  
合に於て特に然り

#### 八、夜間照明設備

1. 夜間照明設備要領中ヘキツチ式の一斉點滅は爆撃及友軍の作  
業等により斷線の慮あるを以て一灯に一兵を附し天幕を携行

敵機附近の待避處に設けしむる位置を要す  
事、故機の強行者連には特に信託を定むるを要す  
又夜間に於ける突撃事故に備へ危険標示信號灯若干箇を常備  
する要あり

九 附屬施設及物資集積場

1. 附屬施設、物資集積場は各種の不便を忍ぶ飛行地盤外周二、  
〇〇〇米以上離隔せる避敵良好なる位置に設定するを要す
2. 兵舎は分隊單位倉庫は其の収容機數五〇—一〇〇機以内且各  
品種綜合倉格納とし配置は小規なるを要す
3. 避敵の爲には大なる森林地帯より點在する小森林を有利とす
4. 建物ハ半地下とし機庫等は銃撃に依り容易に火災を生じた。  
ことあり成るべく避くるを要す
5. 建物毎に近くに洞窟を設け人員退避の外裝具資材等と輕易に  
收容し得る如くするを可とす

陸軍

6. 分散せる物資集積場銃撃に

依り炎上多數の被服を焼失  
せる例あり

監視兵を附し且防火資材(水、  
砂)を準備しあらば斯る損  
害は容易に防止し得べし(葉  
屋根にても出火直後ならば  
容易に消火し得)

7. 秘匿集積場附近には車輛の出入を極力制限し特に彈痕を留め  
ざるを要す

8. 偽裝は避敵に劣る但し雜草内に隱匿するは延焼に依る被害多  
し  
9. 炊事場は遠隔の不便を伴ふも安全なる箇所を設け運搬するを  
可とす

日に數回(一圓の制空時間約一時間)の空襲下に於ても敵機

の行動天候等より其間隔を短縮し運搬するは難事ならず  
10. 炊事場に集積する燃料等は取小限(一、二、三分)に留むるを要す

炊事場の炎上により多数の燃料を失ひたる例あり  
11. 炊飯時の発煙は離隔せる位置に誘導上并せしむるを要す煙導  
更にならるときは煙を大邸は途中にて消滅す

10. 衛生救護

1. 糞帶所は飛行場より離隔せる偽装良好なる坑穴式洞窟又は木林内に設け成る可く小川等水源に近き所又自動車に依る搬送便なる所を可とす
2. 洞窟内には炭根を葺き排水溝を設け(雨水漏れのため支障を來せることあり)出入口には風除けを築き偽装を完全ならしむるを要す
3. 滅菌等に使用する爲木炭止むを得ざるも發煙小なる乾燥せる薪の細片等を多量に準備せるを要す

陸

4. 救護所は飛行場附近の眺望良好なる位置に完全なる耐爆施設とし必要に應じ適宜推進救護に任せしむるを可とす  
本作戦間飛行場勤務班を位置せしめたるに敵機襲撃時傷者發生するも出勤し待す却て糞帶所より出勤せる衛生部員に收容せられたる場合多し

5. 急造代用備架は各小隊各班に少くも二、三個を準備し置くを要す

6. 傷者は一般に夕刻時に多く發生し之が爲糞帶所内の照明には故障機の蓄電池を利用する等の着意を要す

7. 負傷せば直ちに衛生部員に依存する傾向あるも成可く平常教育せられある救急處置を施したる後糞帶所に至らしむれば爾後の治療の結末も良好なり救急法の教育は更に演練の要を感

8. 各隊班は埋没者潮發掘用圓匙及十字鍬等を準備しあるを要す

9. 三〇 靴 靴底に五毛連環注射器等の圓筒吸子其の他必要器具類  
 は早期滅菌しあるを要す  
 10. 強心劑止血劑等の注射薬及効薬等は下個單位とし又制止薬  
 等は五個程度の豫備を夫々常時治療箇所へ備付けあるを要す  
 11. 補助包を濫りに小銃に使用する傾向あり平常の教育を徹底す  
 ると共に補助所には相當数の豫備品を備有しあるを要す

天號作戰に於ける戰訓資料

軍 醫 部

- 一、今次戰闘に於ける出撃は主として薄暮拂曉なるを以て飛行機整  
 備分散格納は練へて夜間にして地上勤務員の外傷豫防及防地上  
 盜路を形成したり特に特番工の如きは地下足袋不足の爲足部の  
 外傷多きを以て草鞋を製作使用せしむ或は地下足袋は特に夜間  
 にのみ使用せしむる等創意工夫せしむたり  
 又防地上よりは夜間は必ず長袖長袴を使用する如く指導し作業  
 後の濡其給與更衣及入浴等を確行せしむたり  
 二、今次戰闘は主として特攻機に依り攻撃なるを以てピストに於け  
 る救護を實施せる事少なく歸還後ピストに於ける戦力恢復は主  
 として誘導機、直掩機の塔梁者なり  
 三、臺灣を基地として出撃せる特攻機、誘導機、直掩機の機動飛行  
 場に於ける不時着の際の第一救護は迅速に實施せられ前進基地(石  
 垣、宮古)の病院にて一時收容し連絡機に便乗し臨時航空病院  
 に收容せるも更に圓滑ならしむる爲後送計畫(飛行機)を立案



し置くを要す

且輸送機は患者輸送用に便なる如く適一内部を改造し得る如く  
よりしめれば更に可なり

四飛行脚團の特性として衛生機材を保有し非ざりしも今次作戦開  
始と共に臨時航空病院を軍隊區分に依り編成せられたる爲空中  
勤務者は各地より空輸し儘めて手懸に入院せしめ而も之の治療  
を促進し症状と状況任務とを勘考し之が急速なる戦力化を計り  
待たり

五飛行脚團自隊に相當量の緊要衛生材料を常備し置くを要す

今次在古、石垣等の飛行場大隊並に地上兵團に計一四八箱海  
上輸送並に空輸補給せり

六航空部隊特種衛生材料は飛行場大隊に常備せしむるを要す  
轉進し來れる部隊の急務に感じ得たり

七陸軍病院の奥地疎開並に航空部隊に對する認識少なき爲航空部  
隊(衛生材料の補給軍の如くならずりしを以て各地區司令部に

擔任實施せしめたり

八第五野戰航空修理廠に於て特攻機、航空機の改修整備作業のた  
め連日徹夜作業を實施せると以て一週間に亘り空中勤務者用特  
殊衛生材料(疲勞恢復液、ココラ錠、戦力増強錠、藥用母肝油球)並  
に航空糧秣食を特に給與し疲勞恢復に多大なる効果を擧げ得  
たり

保管  
 天号作戦間49203  
 支隊部隊運轉中  
 2800-2  
 受入年月日 . . . 数量  
 和洋 (復) 二復  
 発行年  
 備考  
 著者名  
 発行所  
 便用者氏名  
 所屬階級  
 氏名  
 年月日  
 借用者印  
 年月日  
 受領者印  
 三浦 正  
 30.6.2  
 31.7.11  
 梅本 正  
 41.7.11  
 41.2.11  
 31.7.11  
 41.2.11  
 本土周辺3  
 中絶肉係単支隊  
 天号作戦間に於ける  
 支隊部隊運轉中  
 月 日迄  
 貸出中  
 著者及書名

借り出したときは  
 ・本は大切に保管しましょう。  
 ・必ず期日を守りましょう。  
 ・よごさないようにしましょう。  
 ・折目をつけないようにしましょう。  
 ・また貸しをやめましょう。

